

飛騨高山

残したい
想いと風土

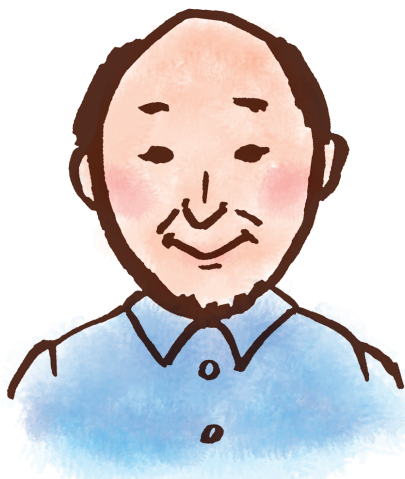


高山市
高庄川町

莊川神社 村芝居

もりした かずや
森下 和也さん

舞台で演じるのも、そして裏方も
村芝居にはやりがいがいっぱい
楽しんでる大人の背中を
子どもたちに見せていきたいな



古くから続く村芝居

莊川町牧戸に生まれ育つ
た森下和也さんは、莊川神
社の「村芝居」に情熱を持っ
て関わり続けています。

村芝居とは、莊川町にあ
る複数の神社で秋の例祭前
夜祭に披露される奉納芝居
で、300年ほどの歴史が
あると考えられています。

祭ではその年の作物をお
供えて実りに感謝をしま
すが、村芝居も同じ意味を
持っています。「立派に成長
した若者たちを神様に見て
いただきたい」という想い
を含め、10〜30代の「若連中
(わかれんちゅう)」が中心
となって舞台に立ちます。

少子化が進む近年は、仕
事で赴任した若者にも声を
かけ、地域に暮らす皆で芝
居を作り上げます。

秋は村芝居の季節

莊川町にある4つの神社で
順に奉納されます

9月3日

ののまた
野々俣神社

「野々俣人情時代劇」
と題して野々俣地区
の有志によって披露
されます。

9月14日
莊川神社

村芝居を締めくくる
のはこちらの神社。
「御母衣ダム」の建
設により水没した集
落の神社も合祀され
たため、氏子は広域
にわたります。



9月1日

くろだにはくさん

黒谷白山神社

黒谷若連中『開明座』
の芝居を皮切りに、
莊川の村芝居は始ま
ります。

9月2日

いっしきはくさん

一色白山神社

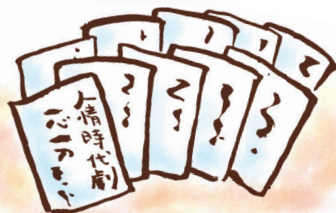
一時は芝居の奉納が
なくなりましたが、
近年復活しました。
こちらの神社では、
芝居で使ったと思わ
れる「まわり舞台」
の跡が発見されてい
ます。



仕事で赴任した若者にも参加を呼びかけます。荘川を離れても毎年芝居に通い、縁が続いている人も。

脚本に吹き込まれる命

思いをこめて書きあげた物語は
役者と観客の熱気によって
魅力的な舞台となります



制作した脚本は10本以上。



思わぬハプニングや観客の
声援も、舞台を作り上げる
大切な要素です。

オリジナルの脚本を

10代の頃は役者として村芝居に参加し、やがて家業を引き継ぎ地元で会社を経営しながら、村芝居では若者の指導や運営を担うようになりました。

村芝居の演目は、過去に演じられてきた脚本がいくつかが存在していましたが、ある時、地域の先輩から「新しい話も作ってみたらどうか？」とすすめられました。最初は断りましたが、「若者が育った姿を見てもらうための芝居なんだから、気負わずやってみたら」という言葉に、とにかく書いてみようという気持ちになりました。しかし、脚本の知識などまったくありません。普段書いている文章といえ、

仕事で特許の申請をする書類くらいでした。

ところがいざ書き始めてみると、仕事の文章とは違い自由に発想できる脚本作りは楽しく、どんどんアイデアが湧いてきました。お盆休みに時間を忘れるほど夢中になって書き上げることもありました。

実際に芝居にしてみると、今度は演じる人によってキャラクターが思わぬ方向へ動き出すこともあり、さらに面白くなりました。

こうして50歳頃にゼロから挑戦した脚本制作でしたが、15年ほどの間に10本以上ものオリジナル演目を作ることになりました。

コロナ禍となってからは3年間上演できていませんが、また動き出せる時を楽しみに待っています。

いま、
伝えたいこと



(文・画)
大森貴絵
高山市

荘川みたいな中山間地域ではどこも、家がなくなったり子どもが減ってまうという悩みがある。そんな中でも**伝統を守って**いって欲しいという願いはもちろん持っとるよ。

でも、伝えていきたいのはもっと単純な「**お祭りは楽しい!**」「**村芝居が好きや!**」という気持ち。**大人が楽しんどうる姿を子どもたちに見せていきたい**な。楽しんでもらうことが、続いていくことにもつながるはずやと思うよ。